

**令和7年度**

**運営に関する計画**

**【最終評価】**

**大阪市立小林小学校**

**令和8年3月**

## 大阪府立小林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

令和3年度の「運営に関する計画」における最終評価から、本校の現状と課題は以下のとおりである。

全教職員が平素より児童に寄り添い、保護者との連携を密にして教育活動に取り組んでいる。「いじめアンケート」を学期ごとに行い、認知したいじめについては、生活指導部会で共通理解を図り、いじめ防止対策委員会を開き、学校を挙げて対応することで、解消することができた。一方で、令和3年度の校内調査の「自分にはよいところがありますか」の項目において、否定的な回答をする児童が3割に及ぶなど自尊感情の向上は十分とは言えない。

体力面では、柔軟運動を普段の授業に取り入れたり、全校でストレッチ週間を設けたりするなど、課題である柔軟性の向上に取り組んできた。取り組みを継続的に実施した結果、令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男女ともに全国平均を超える記録を残すことができた。学力面では、小学校学力経年調査の結果から、標準化得点において大きく向上し、目標を達成することができた。一方で、全国学力・学習状況調査において、国語と算数が共に全国平均を下回るなど、基礎学力の定着に課題がある児童が多い。

ICTの活用については、令和3年度より導入された教育情報利用パソコンの効果的な利用について視聴覚係を中心に模索している。本校では、5月の分散登校期間を機に毎日端末を持ち帰るようにし、自宅でオンライン学習をできるようにした。しかし、スクールライフノートなどを全学級で取り組んでいるものの、取り組みの頻度は学年間でばらつきが見られる。今後もICTの活用方法を探り、教職員で共通理解を深め、教職員・児童共に情報活用能力を向上させていく必要がある。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。

【学力経年調査 R4:80.9% R5:80.1% R6:82.3% R7:74.2%】

- ② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を62%以上にする。

【学力経年調査 R3:58.5% R4:61.1% R5:67.2% R6:60.5% R7:72.7%】

### **【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

① 令和7年度小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比平均を、令和3年度平均より5ポイント向上させる。

**【学力経年調査 R3:0.84 R4:0.78 R5:0.87 R6:0.79 R7:0.85】**

※0.01を1ポイントとする。

② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。

**【学力経年調査 R4:63.7% R5:72.1% R6:70.4% R7:67.1%】**

### **【学びを支える教育環境の充実】**

① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]

**【学習者用端末利活用状況 R6:65.4% R7:69.9%】**

② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

**【年次有給休暇10日以上取得 R6:93.3% R7:100%】**

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。  
【学力経年調査 R4:80.9% R5:80.1% R6:82.3% R7:74.2%】
- ② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を62%以上にする。  
【学力経年調査 R4:61.1% R5:67.2% R6:60.5% R7:72.7%】

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。  
R7:3年0.72  
R6:3年0.76 ⇒ R7:4年0.72(↓0.04)  
R6:4年0.81 ⇒ R7:5年0.99(↑0.18)  
R6:5年0.75 ⇒ R7:6年0.96(↑0.21)  
※0.01を1ポイントとする。
- ② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。  
【学力経年調査 R4:63.7% R5:72.1% R6:70.4% R7:67.1%】

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]  
【学習者用端末利活用状況 R6:65.4% R7:69.9%】
- ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を94%以上にする。  
【年次有給休暇10日以上取得 R6:93.3% R7:100%】

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### ○中期目標及び年度目標の達成状況について

##### 【安全・安心な教育の推進】

- 5月・9月・2月に「いじめ・いのちについて考える日」を設定し、全校朝会での学校長講話をきっかけに、学級でどのような態度がいじめにあたるのかを考える時間を設けた。中期目標には達しなかったが、「いじめは絶対してはいけない」という指導を継続することで、「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」という意識を高めることができた。また、学校全体でいじめと思われる事案が発生したら、複数人で素早く対応できるような体制づくりを続けている。
- 小学校学力経年調査の「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合は72.7%と中期目標及び年度目標を上回った。また、全学年対象の校内調査でも、76.7%の児童が肯定的な回答をしている。毎月の生活振り返りアンケートをきっかけに褒められた内容を具体的に想起させ、自分のよさを振り返ることで自尊感情を高めることができた。

##### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比平均は、令和3年度と比較し、中期目標には達しなかったものの向上させることができた。算数科の学習時間の始めに「計算タイム（5分間程度の学年に応じた計算プリントに取り組む時間）」を昨年度より継続して実施することで、計算領域の問題では、全国平均を上回る学年もあった。今後も「計算タイム」の実施方法や内容を検証し、計算力向上につながる取り組みを続けていく。
- 小学校学力経年調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」の項目について、最も肯定的な「好き」と回答した児童の割合は目標を下回った。しかし、「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた肯定的な回答をした児童の割合は84.8%と、昨年度より多くの児童が肯定的な回答をしている。「なわとび集会」や「かけ足集会」などの体育的行事を実施したり、先生が積極的に運動場に出て、一緒に体を動かしたりするなど、児童が運動に親しむことができる機会を設けたことが要因と考えられる。「なわとび集会」では、なわとびの技を紹介する学習カードを配布することで、休み時間にも意欲的になわとびの練習に取り組む姿が見られた。今後も、楽しく運動に親しむことができる工夫を考えていく。

##### 【学びを支える教育環境の充実】

- スクールライフノートの「心の天気」に取り組むことで、全校児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の66.9%（1月時点）と中期目標を大きく上回った。「心の天気」を活用することで、児童が抱える悩みやトラブルを把握することにもつながった。「Canva」などの活用も広まってきており、ICT研修等を通じて活用方法を共有していきたい。
- 夏季休業期間には10日、冬季休業期間には4日と昨年度よりも多く学校閉庁日を設定することができた。また、ゆとりの日を月に4回設定し、18時を目安に退勤するように取り組むことができた。定時退勤ができるように、今後も学校行事や会議等の精選を行っていく。

## ○年度目標の達成に向けた取組内容について

### 【安全・安心な教育の推進】

すべての項目で「年度目標の達成に向けた取組内容」を達成することができた。相手の気持ちを考え、思いやりのある学級づくりを進める取り組みとして、5月には各学級が道徳科においていじめに関する教材で学習したことを学校全体で共有することができた。9月には、「みんなに使ってほしい言葉」「みんなに使ってほしくない言葉」について学級で考えることができた。2月には、まとめとして児童全員がいじめをなくすために自分ができることを「いじめ0せんげん」用紙に書いて、どんな行動をすればよいのかを考える機会を設けた。今後も、いじめはどんな理由があってもいけないことだという指導を一貫して継続していきつつ、どのようなものが「いじめ」にあたるのを発達段階に合わせて考えていく機会を設けていきたい。すすんであいさつができるようにする取り組みとしては、毎月「生活振り返りアンケート」を実施し、友だちや先生、地域の方へあいさつができていますか振り返る機会を設けてきた。また、1日の初めに元気よくあいさつすることを意識させるため、代表委員会で「あいさつ運動」を実施することができた。友だち同士でよいところを褒め合う機会を設けたり、あいさつができることも「自分のよいところ」だと先生から褒められる機会を設けたりすることで、自尊感情の高まりにもつながっている。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

すべての項目で「年度目標の達成に向けた取組内容」を達成することができた。昨年度より、算数科を研究教科とし、算数科の授業づくりや計算力を高める取り組みについて研究を進めてきた。年間3回の授業研修会を行い、その後の全体協議・研修会を通じて知見を広げることができた。宿題の取り組みとしては、児童一人ひとりに応じた家庭学習を進められるように、各学級で取り組んでいる宿題の出し方を共有した。次年度に引き継ぎ、つながりをもたせることができるようにしていきたい。運動と健康に対する意識を高める取り組みとしては、全学年で休み時間になわとびや持久走に取り組む「かけ足集会」や「なわとび集会」、「けんこうしらべ」や「けんこう週間」などの健康安全・体育的行事を計画的に実施することができた。年度目標の指標には達しなかったものの「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合が、84.8%と多くの児童が運動に親しみをもつことができた。

### 【学びを支える教育環境の充実】

すべての項目で「年度目標の達成に向けた取組内容」を達成することができた。昨年度に続き、3年生以上を対象に「KDDI 情報モラル講座」を実施し、携帯電話・スマートフォンの安全な使い方について学ぶことができた。夏休み前には、「ミマモルメ」を使って保護者へ各 SNS アプリの推奨年齢や利用による危険なことを伝えた。しかし、スマートフォンを所持している児童が増えたことにより、毎年のように SNS をめぐるトラブルが増加している。今後も、家庭と連携を取りながら、児童が正しく情報端末を利用できるようにしていきたい。教職員の働き方改革に関する取り組みでは、夏季休業日や冬季休業日に学校閉庁日を設けることで、年次有給休暇が取得しやすい環境になってきている。また、会議や学校行事の精選により、時間外勤務時間が大阪市平均より下回った。今後も、働き方改革を実施し続け、長時間勤務解消に向けて取り組んでいく。

## 大阪市立小林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。【学力経年調査 R4:80.9% R5:80.1% R6:82.3% R7:74.2%】</p> <p>② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を62%以上にする。 【学力経年調査 R4:61.1% R5:67.2% R6:60.5% R7:72.7%】</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向性2 豊かな心の育成】 相手の気持ちを考え、思いやりのある学級づくりを進める。</p> <p>指標 ・ 児童がお互いについてよく理解し合い、相手の立場に立って考える機会を設けるために、「いじめ・いのちについて考える日」を年3回実施する。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容②【基本的な方向性2 豊かな心の育成】 すすんであいさつができる子どもを育てる。</p> <p>指標 ・ 代表委員会による「あいさつ運動」を年1回以上実施する。</p>	<b>B</b>

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p><b>【年度目標の達成状況】</b></p> <p>① 指標の83%を下回る74.2%となった。肯定的な回答まで広げると9割以上だが、いじめは絶対してはいけないという確信をもてない児童が一定数いることを示している。また、いじめアンケートの聞き取りから「何がいじめにあたるのか」についてはっきり認識していない児童が多いと考えられる。【R7:74.2%】</p> <p>② 学校全体で児童のよいところを褒め合ったり、気持ちのよい言葉をつかたりすることのよさについて指導してきた。また、「生活ふり返りアンケート」を活用して、自分のよいところに気づく機会があったことで自己肯定感が上がったと考えられる。【R7:72.7%】</p> <p><b>【取組内容の進捗状況の結果と分析】</b></p> <p>① 「いじめ・いのちについて考える日」を3回計画通り実施し、定期的にいじめについて学校全体で考えることができた。</p> <p>② 6月に「あいさつ運動」を1回実施した。あいさつを返す児童は多いが、自発的にあいさつをする児童が少ないのが現状である。</p>
--

## 次年度への改善点

### 【年度目標】

- ① 「何がいじめにあたるのか」を具体的に丁寧に理解させたいうえで、友だちを孤立させるような行為は絶対に許されないことを継続して指導する。また、怒りのコントロールや自分の気持ちに向き合い対処する方策を指導する。
- ② 今後も、児童のがんばりを認め、よい行動を褒める声かけを続けていく。また、自分の行動を振り返り、自分自身のよさに気づくことができる機会を設けていく。

### 【取組内容】

- ① 引き続き「いじめ・いのちについて考える日」を定期的実施していく。また、内容や方法を検討し、児童のいじめを絶対に許さないという意識を少しでも高められるような取り組みを行う。
- ② 次年度も代表委員会を中心に「あいさつ運動」を実施し、教室であいさつの大切さを指導していく。そうした指導を通して、自分からあいさつをする習慣を身につけられるようにする。

## 大阪市立小林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p style="text-align: center;">R7:3年 0.72</p> <p>R6:3年 0.76 ⇒ R7:4年 0.72(↓0.04)</p> <p>R6:4年 0.81 ⇒ R7:5年 0.99(↑0.18)</p> <p>R6:5年 0.75 ⇒ R7:6年 0.96(↑0.21)</p> <p>※0.01を1ポイントとする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。【学力経年調査 R4:63.7% R5:72.1% R6:70.4% R7:67.1%】</p>	<b>B</b>
<b>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</b>	<b>進捗状況</b>
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>算数科の授業づくりや計算力を高める取り組みを行い、算数科における基礎・基本の力を身につけることができるようにする。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 ・ 算数科の授業づくりについての研修会を年1回以上実施する。</p>	<b>A</b>
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>各学年に応じた家庭学習を進められるように工夫する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 ・ 各学年に応じた家庭学習を進められるよう、「宿題の取り組み方」についての研修を年1回以上実施する。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>健康安全・運動的行事を充実させ、運動と健康に対する意識を高める。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 ・ 全学年対象の健康安全・運動的行事を年間3回以上行う。</p> <p>・ 全学年、「食に関する指導」を年2回以上行う。</p>	<b>B</b>
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<p><b>【年度目標の達成状況】</b></p> <p>① 授業の始めに「計算タイム(5分間程度の学年に応じた計算プリントに取り組む時間)」に取り組むことや練習問題に取り組む時間を10分以上確保することで、算数科の学力向上につながってきている。</p> <p>② 毎年、運動に親しみをもち、基礎体力向上につながる運動集会を実施しているが、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、指標に達することができなかった。しかし、肯定的に回答した児童は84.8%と、多くの児童が「運動が好き」と感じている。【R7:67.1%】</p>	

### 【取組内容の進捗状況の結果と分析】

- ① 算数科の授業づくりについての研修会、研究授業の全体協議を通じて、年5回以上の研修会を行うことができた。
- ② 各学級の「宿題の取り組み方」を共有し、児童一人ひとりに応じた家庭学習を進められるように工夫した。
- ③ 「けんこう週間」を2回実施し、手洗いやうがいなどの基本的な生活習慣の定着を図り、健康への関心を高めた。また、運動的行事を3回実施することで運動への関心を高め、運動やスポーツに親しむ児童の育成に努めた。さらに、「食に関する指導」を各学年2回ずつ行い、健康的な食生活について主体的に考える機会を設けることができた。

### 次年度への改善点

#### 【年度目標】

- ① 今年度の取り組みを継続していくとともに、基礎・基本の定着を図り、「わかる」喜びを実感できる授業づくりをしていく。
- ② 次年度は、より運動が楽しいと感じられるような集会活動を企画していく。

#### 【取組内容】

- ① 研修内容をより研修のテーマに添ったものや、児童の学力向上につながるものにし、指導者の授業力向上へとつなげていくことができるようにする。
- ② 引き続き、家庭と連携を取りながら、複数の教員で児童の実態を把握し、宿題の取り組み方について考えていく。
- ③ 次年度も、「けんこう週間」や「食に関する指導」を計画的に実施し、基本的な生活習慣の定着と健康意識の向上を図っていく。また、運動的行事については内容を工夫し、楽しさを重視した取り組みを行うことで、運動への意識向上につなげていく。

## 大阪市立小林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]  <b>【学習者用端末利用状況 R6:65.4% R7:69.9%】</b></p> <p>② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を94%以上にする。  <b>【年次有給休暇10日以上取得 R6:93.3% R7:100%】</b></p>	<b>A</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】            情報社会の特性を理解し、適正な活動ができるよう指導する。</p> <p>指標 ・ 全学年、情報モラルについての学習を年1回以上行う。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】            ゆとりの日(全教職員が18時まで退勤する日)や学校閉庁日の設定、学校行事や会議の精選・短縮などにより、働き方改革を推進する。  <b>【R7 学校閉庁日:夏季休業中10日 冬季休業中4日】</b></p> <p>指標 ・ ゆとりの日を月に4回設定する。            ・ 学校閉庁日を夏季・冬季休業日期间中に合計5日以上設定する。</p>	<b>A</b>

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p><b>【年度目標の達成状況】</b></p> <p>① 「心の天気」の入力で、学習者用端末利活用率が69.9%と指標を上回ることができた。また、スクールライフノートの「発表ノート」や「Canva」などの利用も増えてきている。  <b>【学習者用端末利用状況 R7:69.9%】</b></p> <p>② 夏季休業期間と冬季休業期間に学校閉庁日を設定することで、年次有給休暇を10日以上取得した教職員の割合は100%と目標を上回ることができた。  <b>【年次有給休暇10日以上取得:100%】</b></p>
---

### 【取組内容の進捗状況の結果と分析】

- ① 各学年に応じた情報モラル教育や外部講師による出前授業を実施することができた。しかし、児童への指導や保護者への注意喚起をしているものの SNS トラブルは増加傾向にある。
- ② 年次有給休暇を取得しやすいように、夏季休業期間と冬季休業期間に学校閉庁日を合計 14 日間設定することができた。また、ゆとりの日（18 時までには退勤）を週に 1 回設定することで、昨年度に比べて時間外勤務時間が減少した。

【R7 学校閉庁日：夏季休業中 10 日 冬季休業中 4 日】

### 次年度への改善点

#### 【年度目標】

- ① 「心の天気」の入力だけではなく、「Google Classroom」の活用も進めていく。
- ② 学校閉庁日の設定など、年次有給休暇を取得しやすい環境づくりは引き続き行っていくが、時間外勤務時間の減少に焦点を置いた取り組みも実施していく。

#### 【取組内容】

- ① 今後も、引き続き保護者への啓発を行うとともに、児童に具体的な事例を交えながら指導を継続していく。
- ② 学校行事を精選することや学校閉庁日を設定することが時間外勤務時間の減少につながっているため、今後も引き続き検討していく。